

第1回あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議事録

開催日時 令和2年10月15日(木)14時から

開催場所 大阪消防局 6階会議室B

出席者

- (1) あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議メンバー(敬称略)
室崎、池内、城下、左川
- (2) 消防局職員
予防部地域担当課長
予防課地域担当副課長
予防課地域担当係長
予防課地域担当

議題懇談

- (1) 座長の選出について
- (2) 座長代理の選出について
- (3) あべのタスカル施設概要について
- (4) あべのタスカルリニューアル後の状況について
- (5) 市民のニーズに応じた運営のあり方、防災体験学習及び展示内容に関することについて
- (6) その他

●事務局

お待たせしました。

ただいまより第1回あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議を開催させていただきます。

各メンバーの皆様におかれましては、本日もお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます。消防局予防課地域防災担当係長の住野でございます。よろしく願いいたします。

本日は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、開口部を3か所開け、マイクを使用して会議を開催させていただきます。

音量が小さく聞き取りにくい場合は、事務局までお知らせください。

それでは式次第に沿って会議を進行させていただきます。

はじめに消防局予防部地域担当課長の徳田よりあいさつ申し上げます。

●事務局

ただいまご紹介にあずかりました、消防局予防部地域担当課長の徳田です。

本日は先生方におかれましては、大変お忙しい中、第1回目の「あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議」にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、この会議の趣旨につきましては、後ほど事務局からご説明させていただきますので割愛させていただきます。

阿倍野防災センターは、平成16年に現在の場所にオープンし、オープン後15年を経過し、昨年4月大規模改修を経て「あべのタスカル」の愛称とともにリニューアルオープンし、新しい体験型防災研修施設として順調な滑り出しでありましたが、リニューアル後1年を迎えようとしていた矢先に新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、新たな課題も浮き彫りになりました。

本日の会議では、あべのタスカルの実績と現状をお示しして、今後さらに魅力のある施設運営をしていくために、先生方あらゆる面からご意見やご教示をしていただくことにしております。

本日は、限られた時間ではございますが、忌憚りの無いご意見、ご教示をいただきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願い申し上げます。

●事務局

続きまして、メンバーの皆様のご紹介をさせていただきます。

なお、順不同でご紹介させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

- ・兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科長の 室崎(むろさき)益輝(よしてる)様です。
- ・摂南大学建築学科教授の 池内(いけうち)淳子(じゅんこ)様です。
- ・関西大学社会安全部准教授の 城下(しろした)英行(ひでゆき)様です。
- ・中小企業診断士の 左川(さがわ)睦子(ちかこ)様です。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

消防局地域担当課長の 徳田です。

地域担当副課長の 金井です。

地域防災担当の 知野です。

続きまして、本会議の趣旨につきましてご説明させていただきます。

大阪市立阿倍野防災センターは、開館当初から指定管理者制度を導入し、指定管理者と指定管理者から依頼され受嘱した名誉館長1名を置いた形で、当局と協力して施設の運営を行ってきました。

その後、近年、東日本大震災をはじめとする地震災害や、毎年日本列島に上陸する台風や豪雨などの風水害が全国各地で発生しており、防災知識に関する市民のニーズが年々高まっております。

当局としましては、これらの災害に対して、市民の皆様の防災知識の習得及び高揚をより一層図るため、今後の防災センターの運営について、防災の専門家をはじめ様々な分野の方々から多様な意見をいただき、その意見を指定管理者と当局が協力して反映させることで、市民のための施設としてより一層充実させたいと考えております。

本日お集まりいただきました皆様には、本趣旨をご理解いただきまして、さまざまなご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

続きまして、会議の進め方についてご説明させていただきます。

大阪市では、指定管理者制度を導入している公の施設は、指定管理業務の状況について継続的な点検及び評価を所管する所属にて行っております。

毎年度終了後に、指定管理者から提出される防災センター事業報告書に基づき、当局の評価及び外部専門家の意見により総合的に評価し、適切な運営を行っております。

これらの総合的な評価資料と来館者の皆様からいただいたご意見やアンケート、指定管理者等からの提案等を基に、本会議を年1回開催させていただきたいと考えております。

なお、実施時期につきましては、6月から7月の間で皆様の日程を調整させていただき実施する予定でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

それでは、議題懇談に入る前にお手元の資料の確認をさせていただきます。

- 【資料1】 あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議開催要綱
- 【資料2】 メンバー名簿
- 【資料3】 あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議資料
- 【資料4】 令和元年度 大阪市立阿倍野防災センター事業報告書
- 【資料5】 令和元年度 指定管理者年度評価シート
- 【資料6】 コロナ禍における災害伝承ミュージアム等へのアンケート集計レポート
- 【資料7】 審議会等の設置及び運営に関する指針

以上でございますが、不足しているものはございませんか？

それでは、議題懇談に入らせていただきます。

(1) 座長の選出について、まずメンバーの皆様の中から、座長を決めさせていただきたいと思っております。

【資料1】をご覧ください。

あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議開催要綱第4条の規定に、座長はメンバーの互選により定めるとされております。

もしよろしければ事務局から提案のうえ、互選していただきたいと思いますがいかがでしょうか。

●各メンバー
承諾

●事務局

当局における防災に関する様々な事業にご尽力をいただいております、室崎先生にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか？

●各メンバー
異議なし

●事務局

ありがとうございます。それでは室崎先生、座長に互選されましたので、ひとことごあいさつをお願いいたします。

●座長

皆さんに選んでいただきありがとうございます。

阿倍野防災センターは、災害を伝承するうえで防災教育のあるべき姿を最初に定義したとても素晴らしい施設であります。

近年は、災害の時代であり災害の状況が目まぐるしく変化し、新しい知識及び新しい考え方が必要となるので、日々展示を新しくすることが求められています。

今回リニューアルできたらかといつてこのままでは、決して良くないのでメンバーの皆さん積極的な意見をよろしくお願いたします。

●事務局

ありがとうございます。
それでは、これから先は座長に議事の進行をお願いいたします。

●座長

座長の代理の方を決めたいと思います。
防災教育を熱心に行っておられます池内先生をお願いしたいと思います。

●各メンバー

異議なし

●事務局

ありがとうございます。
池内先生よろしくをお願いいたします。
引き続き議事の進行を座長よろしくをお願いいたします。

●座長

まず、あべのタスカル施設概要についての審議に入ります。
事務局よりこの件について、説明していただきます。

●事務局

あべのタスカルの施設概要について、ご説明をさせていただきます。

【資料3】の1ページをご覧ください。

大阪市では、平成7年の阪神・淡路大震災を教訓に、それまでの「大阪市地域防災計画」を抜本的に見直し、新しい計画にそった災害に強いまちづくりの一環として、災害時に迅速・的確に応急活動を進めるため、阿倍野防災拠点施設を建設しました。

建物は、7階建てで名称は「あべのフォルサ」です。

このうち3階すべてと4階の一部を防災センターとして使用しております。

2ページをご覧ください。

阿倍野防災センターは、災害に関する知識及び技術の普及向上並びに防災意識の高揚を図るとともに、災害発生時における応急活動の拠点としての役割を果たすことを目的に、体験型防災学習施設として平成16年5月にオープンしました。

また一般市民の防災意識・能力の向上を目的とした「防災体験学習エリア」と、地域・団体等において防災活動を推進する方々などに研修や訓練等を行う「防災研修訓練エリア」に分かれおり、「防災体験学習エリア」は、阪神淡路大震災の教訓を生かし、地震災害に特化した研修内容を、一連のシナリオとしてストーリーに沿って学習できるシステムを構築しております。

3ページをご覧ください。

3階部分の平面図で向かって右側が「防災体験学習エリア」で、左側が「防災研修訓練エリア」となっております。

4ページをご覧ください。

東日本大震災をはじめ近年発生した災害の教訓を踏まえた学習内容への更新と、老朽化した設備やシステム機器の整備、また市内在住者の利用率向上を目指すため、平成27年に「防災体験学習エリア」の再整備を決定しました。

再整備にあたり「防災を自分自身の問題としてとらえ、具体的な防災行動につながる体験型学習施設へ」をコンセプトとし、「自分で選べる」・「地域特性に応じた」・「帰宅後の防災行動につながる」体験学習ができる施設を実現することとなりました。

5ページをご覧ください。

阪神淡路大震災の教訓を生かした一連のストーリーに沿った「がれきの街」を残しつつ、各コーナーのリニューアルが完了し、あべのタスカルとして平成31年4月27日にリニューアルオープンしました。

6ページをご覧ください。

「あべのタスカル」という愛称の意味ですが、再整備された防災センターにおいて、最新の防災知識や技術を体験学習することで、災害発生時に「助かる」人となり、そして大切な人を「助ける」人になってほしい、という消防局の願いが込められています。

7ページをご覧ください。

新コーナーとして、大阪情報ステーション、タスカルシアター、津波避難を学ぶ、備えを学ぶ、キッズしょうぼうパークの5つを新設しました。

8・9ページに体験コーナーの概要と10ページに体験コースの詳細を掲載しております。

なお、詳細については割愛させていただきます。

以上があべのタスカルの概要です。

●座長

ただいまの説明について皆様、質問、意見はございませんか。
特にないようですので、リニューアル後の状況についての審議に入ります。
事務局よりこの件について、説明していただきます。

●事務局

あべのタスカルリニューアル後の状況についてご説明させていただきます。

【資料3】の11ページをご覧ください。

リニューアル後の来館者数は、防災体験学習エリア及び防災研修訓練エリアを合わせると10万人を超えております。

3月にあっては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、防災体験学習エリアは臨時休館のため「0」でした。

12ページから13ページにかけて体験コースの内訳及び体験コーナーのうち、よかったコーナーについてのアンケート集計結果となっております。

震度7体験コーナーが約30%で人気の高さがよくわかりました。

14ページには来館者の年代別及び居住別を15ページには来館者の来館回数などの集計結果となっております。

年代別をみますと大きな偏りがなく小さい子供から高齢の方まで幅広く来館させていることがわかりました。

居住別をみますと大阪府下からの来館者が、圧倒的に多いことがわかりました。

続いて22ページをご覧ください。

リニューアルオープン後の管理運営の成果及び実績を記載しております。

来館者数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、達成率が100%に到達しませんでした。利用者の満足度は数値目標を達成することができました。

しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大により、本年の2月末から5月20日までの約3か月臨時休館することとなりました。

また、5月21日に再開をしましたが、感染拡大防止措置として来館者の人数制限及び体験コーナーの使用制限などにより大幅に来館者が減少しております。

23ページに再開後の来館者数を記載しております。

また、資料6をご覧ください。

先日、人と未来防災センターからコロナ禍における全国の防災に関連する各施設に対してアンケート調査があり、この結果を集計したレポートをいただきました。

このアンケートにあべのタスカルも回答させていただきました。

その中で9ページをご覧ください。

コロナ禍における今後の展望として、各施設の実践事例が記載されております。

当局としましては、この資料をはじめ様々なご意見をいただき、今後コロナ禍における集客などに努めてまいりたいと考えております。以上よろしくお願いたします。

●座長

それでは、リニューアル後について少し検討していきたいと思っております。

●城下

質問ですが、来館者に占める団体の割合はどれくらいですか？

●事務局

団体利用が圧倒的に多いです。

平日は、主に小学校、中学校、高校、その他地域の団体利用も多いです。

土日は、家族連れなどの利用が多いです。

●池内

リニューアル後の来館者数は、リニューアル前より増えたのですか。

●事務局

リニューアル前の平成30年度は、10月からリニューアル工事が始まりましたので正確な数字ではありません。

平成29年度と比較しますと来館者数は、159,876人で、そのうち防災学習体験エリアは、65,724人となっております。

リニューアル後の方が、体験コース（防災学習体験エリア）の人数は増えており、リニューアルの効果があったと思われます。

●池内

13ページの体験コーナーのアンケートの取り方はどのようにしていますか。

●事務局

リニューアル後のアンケート用紙を皆様にお配りします。(アンケート用紙をメンバーに配付)
アンケートは、よかったコーナーを3つ選択していただいております。

●座長

体験コースの中に必ず入っている「タスカルシアター」、「がれきの街」、「震度7体験」がどうしても数字が上がる傾向がありますね。

また、「消火を学ぶ」は楽しいので皆さん一生懸命する傾向がありますが、その他の「学ぶ」コーナーはコースの後半で疲れや、時間がないので数字が上がらないような感じがしますね。

個別の体験学習を今後どうやっていくかを考えましょう。

●左川

季節による来館者の傾向はどんな感じですか。

●事務局

7・8月は、夏休みで来館者が増える傾向があります。

学校行事の関係が大きく影響していると思われます。

授業のカリキュラムとして6月頃から7月までに集中しております。

また、夏休みはイベントを実施し、休館日を閉館しておりますので、7・8月に来館者が多い傾向が出ております。

●城下

来館者の年齢層が、平準化されているところはすごいことですね。

特にコロナ禍では強みだと思います。

●座長

そのあたりを含めて分析が必要ですね。

以前は、高齢者の方の来館が少なかったようですが。

●事務局

地域の団体利用が増加しました。

●座長

各年代から来館してもらえる点は、魅力のある部分ですね。

●城下

学校などの団体で来館した際のアンケートはどうしていますか。

●事務局

団体では、あまりアンケートをとっていません。

個人等による来館者からを主としています。

●城下

12ページと13ページの関係性が重要かと思います。

1時間コースだと時間が短く、後半のコーナーの学習が弱くなってしまふ。

2時間コースだと時間があるので後半のコーナーもしっかり学習できる。

そのあたりが数字に出ているのではないのでしょうか。

●池内

15ページの「もう一度来たいと思うか？」のアンケート結果は、1時間コースの場合に「思う」と回答していると思われますね。

相関を調べてみないとわかりませんが。

●座長

アンケートは、貴重なデータなので丁寧に分析すると面白い答えが出てくるかもしれませんね。

リニューアル後の状況については、最後にまとめて意見をいただくことにします。

続きまして次の議題、市民のニーズに応じた運営のあり方、防災体験学習及び展示内容に関することについての審議に入ります。

事務局よりこの件について、説明していただきます。

●事務局

市民のニーズに応じた運営のあり方、防災体験学習及び展示内容に関することについてご説明させていただきます。

【資料3】の10ページをご覧ください。

体験コースは、研修内容に応じて5つのコースを設定しております。

16ページをご覧ください。

体験コース以外にも時期や年齢層に応じたイベント、展示会、講習会などを開催して集客に努めています。

17・18ページにはイベント等への参加者数及び実施期間を記載しております。

この数字をただ見ただけでは、来館者の皆さんがイベントなどについても、どれくらい満足しているかを把握することができません。

これらをまとめて問題点として、24ページに記載させていただきました。

同様に25ページにも臨時休館中に「あべのタスカル YouTube チャンネル」を開設し、アップしましたが、視聴者からの評価も少なく、満足度もわかりにくい状況となっております。

このように現状の問題点を解決するため、課題をピックアップさせていただいたのが、26ページから29ページとなっております。

これらの課題について、事務局としての考え方が適切であるか、またこれ以外にも皆様からご意見をいただきたいと思っております。

ご審議のほどよろしくお願いたします。

●座長

皆さんご意見いかがでしょうか。

●城下

質問ですが、26ページの小中学校、その他の団体の受入れで「現在は、30分コース20名まで」はコロナの影響でしょうか。

●事務局

その通りです。

●城下

通常はどれくらいの人数ですか。

●事務局

通常は、各コース1回30名です。

●城下

学年で2クラス又は3クラスで来る場合、約100名程度来たら30名程度にグループ分けするのですか。

●事務局

その通りです。

スタート位置を別々にして体験しています。

現在の20名も10名ずつに分けスタート位置を別々にして、密を避けるようにしております。

●城下

現状のコースでは、学校関係が来館するのは難しいそうですね。

●事務局

現在のコロナ禍の状況を踏まえて、11月からは40名程度に増やす予定です。

大阪市内の小中学校の1クラスが40名程度ですので、そこに照準をあてて対応していきます。

●座長

新しい感染症が発症すると、次々と形を変えて長期化する傾向があります。

今後は、コロナとうまく付き合いながらコロナ時代の研修のあり方として、プログラム(体験コース)の見直しが必要かもしれませんね。

例えば、現在の30分コースでは、学習プログラムが体験できないので、YouTubeを見てから体験コースに来るとか、逆に体験してからYouTubeを見るなどYouTubeをうまく利用することで体験できない部分を学習する。

また、体験プログラムだけに特化したコース設定、シアターと震度7体験のみのコース設定など、コロナ禍の状態はまだまだ続きますのでプログラムの検討が必要じゃないですか。

●城下

20ページに周辺施設の状況があり、その中にあべのタスカルの近隣に天王寺動物園があります。

学校が行動する単位として学年単位で動くことが見受けられます。

例えば校外学習として、あべのタスカルでの防災体験と天王寺動物園での課外授業などの具体的なカリキュラムの提案を学校にしてみてもどうでしょうか。

●池内

集客という面では来館者がリニューアル前より増えてよかったですと思います。一方で、コロナに関しては別として、今後どういう風に集客していくかとなったときに、市民の誰もが知っている、例えば水族館（海遊館）みたいに、防災学習施設が認知度の高い施設となることを目標にするとか、また学校への研修プログラムを見直して、リモートの活用等に特化した研修プログラムを（学校側に）提案してみる、などはどうでしょうか。

YouTube は、ユーチューバーに撮影場所を提供して、楽しく体験している様子の動画を作成してアップすれば、宣伝も兼ねていいのではないのでしょうか。

アンケートの取り方ですが、通常のアンケートとは別に、本当に意見をいただきたい方に具体的な内容を聞き取る方法など、2通りに分けた方がいいのではないのでしょうか。

具体的な部分は、インタビュー形式などでしっかり記録しておくことも必要ですね。（エビデンスについては）イベント・展示を申込み制にすると申込み倍率や問い合わせ数で人気度が測れます。

よって、決してアンケート（収集枚数）にこだわり過ぎる必要もないのでは。アンケートを取った場合は、アンケート内容を分析して、どう反映させるか、PDCA を意識して取る必要があります。

●左川

YouTube は、「勉強」も必要ですが、「楽しい」と感じられるようなものがあれば、いいのではないのでしょうか。

SNSは、何を活用していますか。

●事務局

YouTube だけです。

●左川

あべのタスカルには、キャラクターもいるのでそれを活用してみたいかでしょうか。

特に Web 上に露出していくことで、認知度も上がると思います。

スタンプカードを利用して、ハンコが溜まったら記念品を出すなど、リピーターを増やすことも考えてみてはいかがでしょうか。

●城下

スタンプカードの特典として、消防局のイベント、消防署見学への招待とか子どもにはいいかもしれませんね。

アンケートは、自分たちの目標の指標にもなり、それに対しての成果もわかるのでしっかり活用していただきたいと思います。

●座長

本日は、1回目なのでいろんな意見を出していただき事務局に宿題として、受け止めていただければいいと思います。

●池内

体験コースの際にスタッフ（アテンド）が案内するときに、会話の中でしっかり来館者から意見を聞き取ることも必要と思います。

紙ベースでなくタブレットなどの機器も検討してみたいかでしょうか。

また、この会議の内容をどのように指定管理者に周知しますか。

●事務局

毎月実施している調整会議で周知したいと思います。

●座長

指定管理者と消防局の関係について、整理しておきますと消防局は全体的な運営面を管理し、指定管理者は現場サイドの具体的な運営等行っているのので、この会議の内容について、次回は現場の声として指定管理者にも参加していただけたらいいと思います。

●池内

指定管理者としても日々の業務も大切ですが、将来的なことも考えてこの会議の内容を認識し、新たな提案を考えるのもいいのではないのでしょうか。

●左川

この会議の中で出た意見やアイデアをまとめて、現在の指定管理者との契約の中で実施出来そうな事業については、調整会議の中で提案し、将来に繋がる事業については、次の指定管理者を選定する際の仕様書に反映するようなイメージですか。

●事務局

現在の指定管理者で可能なことは実施し、実施できない場合は次回の指定管理者を選定する際の仕様書に反映できればと考えております。

●左川

学生向けが多いですが、企業向けのコースの充実にもっと力を入れてもいいのではないかと思います。企業のBCPの計画の中に組み込めると思います。自然災害ではないですが、コロナなどの外部環境の大きな変化があったときはBCP対策をとっていたところが強く、その一つの対策として、あべのタスカルでは具体的な行動を学べるようにする。それには新たなメニューを作るなど新しい取り組みとしていいと思います。

●座長

コロナ前は学校と団体で手がいっぱいであったが、今後は企業に力を入れてもいいですね。例えば週に一度企業の日を作るとか、企業向けのプログラムを流してみるとか。企業研修と防災センターの位置付けを考えていただけるといいと思います。今までがすごく順調で本当にたくさんの方々に来ていただいている。ただそれに甘えず、企業や高齢な自治会が来たらどうするかなど、対象ごとのプログラムを考えることも必要かもしれないですね。毎年この会議をやるならばオブザーバーとして指定管理者にも聞いていただいた方がいいと思います。もしご意見があればそこで言っていただけますし。今日出たアンケートの取り方の意見についてどう生かしていくか。どの様なアンケートにするかはアドバイスを受けて作ってみるとか、テーマを絞ってこの体験だけとってみようとか、まさにアドバイザー会議の果たすべきところですので、今後相談していただけたらと思います。

●池内

コロナの中なので、自分の携帯でアンケートのQRコードをよんで、自分の携帯で入力して送る方法ならそれほどお金もかからないと思います。

●座長

アンケートのデータはすごく重要で、データがないと我々も発言しづらいので、ぜひ工夫していただきたいです。事務局からなにかご質問はありませんか。

●事務局

「今こそ防災」をどの様に阿倍野防災センターに絡めていくのがいいでしょうか。

●座長

「今こそ防災」の中に書いてありますが、この部分は阿倍野防災センターが一番いいですよ、とアピールしていただく。実際に体を動かしてがれきから人を助けたりすることは、タスカルでないとなかなかできません。それでは最後に、先生方から一言ずつお言葉をいただけますか。

●城下

自然災害の少ない国から来る人が増えている中で、大阪市民は知っているから行かないというものもあると思います。そんな中で、あべのタスカルではこれができます。他ではできませんというのがもっと見えてくると、皆さんもっと足を運んでくれると思います。最初の方のアンケートで学習コーナーの人気がないのも、物珍しさがなく体験したことがあるからじゃないかなと思うのですが、だからこそその大事さややる意味をもっとしっかりと伝えられれば、そのあたりの見方や評価も変わってくるんじゃないかなと思います。

●池内

私自身コロナ禍で実感しましたが、リモートの良さがあります。(今までの)大学では、いかに学生に大学に来させて勉強させるかに注力してきましたんですが、意外とリモートで授業すると点数が上がったりします。ただ「完全リモートにしてもだめだ」ということもわかりました。例えば、リモートで事前に学習してもらってタスカルに答えがある、や、ホームページで何かを解いていってタスカルで回答がもらえる、だとか。リモートとコラボしたやり方が必要になってくると思います。もう一つ、防災には答えがありませんので、「来場者に答えのない問いかけをして、後日、答えを出してもらう」一連のプログラムが提供できたらいいのではないのでしょうか。学校の先生に、「こういう問いかけをしてみてもはどうでしょうか」という具体的なものをお渡しし

て、学校に戻ってから先生方にそれを活用してもらおう。

タスカルに来たら、「教える・伝えるヒントがもらえる」、という風にするとか。あべのタスカルでの体験前後の学びを強化する試み、というのは、そんなにお金がかからないと思いますので、その工夫があった方がいいと思います。

●左川

指定管理者の自主事業で物販とかありますが、かなり費用的に厳しいところがあると思います。

魅力とか価値という面で考えると、ただの価値とお金を払った時の価値は違いがあります。

指定管理者の自主事業の収益として繋がれば、指定管理者の事業展開へのモチベーションアップにつながるので、公共的な位置づけ、使命といったところで子どもからお金はとらないで、大人からはお金をもらうという仕組みを作ってみれば、指定管理者もより活発な活動ができるのではないのでしょうか。

●座長

本日は、貴重なご意見をたくさん出していただいていた事務局には宿題が増えましたけど、第1回のアドバイザー会議としては、考えていた目的はほぼ達成できたと思います。次の会議までに気付いた点がありましたら事務局から各メンバーに問いかけやアドバイスをいただくように心掛けてください。

では、次に「その他」として、次回の会議の開催について事務局から説明いただきます。

●事務局

今回の会議については、指定管理者から提出される令和2年度の事業報告書、来館者の皆様からいただいた意見やアンケート、指定管理者等からの提案された内容を基に会議資料を作成し開催させていただきたいと考えております。

なお、会議の内容について、「審議会等の設置及び運営に関する指針」により原則公開するとなっております。

事務局としましては、本会議に関しまして非公開にする理由が見当たりませんが、メンバーの皆様で非公開にする理由がございましたら、ご審議をいただき公開にするか非公開にするかの判断をお願いしたいと思います。

●各メンバー

異議なし。

●事務局

公開と判断いただきましたので、会議における資料及び会議の要点記録を大阪市のホームページ等に公表させていただきます。

会議の開催時期につきましては、令和3年の6月から7月にかけて開催したいと考えておりますので、その際は、日程調整にご協力よろしくお願いたします。

本日は、熱心なご議論をいただきありがとうございました。

今回、メンバーの皆様からいただいたご意見をもとに、指定管理者とも調整のうえ、あべのタスカルの運営をより良いものへとしていきたいと思っております。

これを持ちまして、第1回あべのタスカル魅力向上アドバイザー会議を閉会させていただきます。

皆様ありがとうございました。